

平成 31 年度公益社団法人静岡県茶業会議所事業計画

当会は、静岡県における茶業界を代表し、その振興を図るため静岡茶振興方策を樹立推進するとともに、静岡県茶業に携わる関係団体相互間の連携協調を図り、併せて我が国茶産業の興隆と日本茶文化の継承発展に寄与することを目的として掲げている。

茶業の現状は、高価格帯のお茶の消費が減少する一方、ドリンク向けを中心に中～低価格帯の需要は高まっており、供給と需要のミスマッチが顕在化している。

本県では、これまで一番茶の高価格帯リーフ茶を中心にした生産・加工・販売を行ってきたことにより、その経営は厳しさが続き、生産現場においては、価格の低迷や担い手の高齢化などにより、荒廃茶園が増え、生産力の低下が懸念されている。

一方、海外では、健康志向の高まりや、食材としての抹茶人気などにより、日本茶の需要は増え、輸出も順調に伸びている。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控え、訪日外国人の増加が見込まれている。

このような情勢を踏まえ、平成 31 年度は、引き続き県補助事業「明日のしずおか茶育成事業」及び本会単独事業「茶業振興事業」を中心に、会員団体や県等との連携を図りながら、喫緊の課題解決に向け、体系的かつ計画的に事業を展開していく。

「明日のしずおか茶育成事業」については、安心安全な静岡茶づくりのため、GAP や HACCP の推進による静岡茶の衛生管理の徹底を図るとともに、平成 32 年 4 月の改正食品表示法の完全施行に向け、日本茶業中央会の「改訂緑茶の表示基準」や改正食品表示法の周知徹底に努める。

また、静岡茶のファン創出のため、インバウンド対応の視点からも静岡茶魅力発信サイト「Shizuoka Green Tea Guide(英語版・日本語版)」の内容の拡充に努めるとともに、静岡ティーレポーターや、「Facebook」・「Twitter」等の SNS の活用による静岡茶の魅力発信の一層の強化に取り組む。また、美味しい静岡茶を飲んでもらう「静岡茶屋」の引き続きの推進と、そのブランディングを図るとともに、レストラン等における静岡茶の常態的な利用をモデル的に取り組む。

さらに、日本茶の伝統文化である「茶歌舞伎」を多くの方に楽しみながら体験していただき、お茶への関心を高めてもらうために、会員団体や日本茶インストラクター協会等と一体となり、「第 1 回静岡県茶歌舞伎大会」を開催する。

次に、「茶業振興事業」では、学術研究会と連携した茶の効能の PR やセミナーの開催、奨学寄付による機能性研究への支援、各種表彰事業等に引き続き取り組むものとする。加えて、茶業の将来を見据え、新たに、「茶の新時代を創る会（俗称「静岡茶ユース」）」及び「茶と人」フロンティア静岡会議」を組織し、茶業者が茶業分野にとどまらず幅広い分野とのネットワーク形成を構築すること等により、創造性のある茶業を展開し、茶業の領域拡大に繋げる。

また、編集部において、月刊誌「茶」の発行を引き続き行うとともに、30 年度に発行した近年の茶の品種を取りまとめた図書「茶の品種」の PR 及び販売に努める。

その他、日本茶輸出促進協議会と連携して、輸出促進のための実証圃を設置するとともに、茶業会館の堅実な運営を行う。

1 公益目的事業 全体予算額 92,121 円（共通経費 29,032 千円を含む）

(1) 明日のしずおか茶育成事業 予算 10,600 千円

① しずおか茶安心づくり事業 予算 2,100 千円

ア GAPの推進 予算 100 千円

静岡茶の信頼と信用を一層強固なものとし、消費者からの支持を獲得するべく、T-GAPの推進を図るとともに、さらなるステップアップのため、J-GAP等へ移行を促進する。

イ 静岡茶衛生管理者のスキルアップ研修 予算 1,600 千円

(ア) 輸出拡大に向けた HACCP 研修

衛生管理者を対象に HACCP を主にした講座（有料）を開催する。

(イ) 衛生管理基礎研修

初心者を対象に、衛生管理の基礎研修を実施する。

(ウ) 緑茶表示説明会（新規）

緑茶表示基準の改訂に伴う新基準の周知を図るための説明会を行う。

ウ 茶機能性の理解促進 予算 400 千円

緑茶等の機能性等の理解を深めるため、一般県民を対象にシンポジウムを開催する。

② しずおか茶ファン創出事業 予算 8,500 千円

ア 静岡茶情報発信 予算 1,000 千円

静岡茶の産地、製造法、歴史、効能機能、安全性などを説明するパンフレット等を作成・配布する。

イ 緑茶人間の拡大 ～口コミによる静岡茶 PR～ 予算 3,800 千円

県内外・海外へ、クチコミを中心にした静岡茶の魅力発信

・コミュニティサイトの強化

静岡茶屋、動画コンテンツ、体験研修施設の追加

・静岡茶ティーレポーター（日本人、外国人）の委嘱

・“facebook” “twitter” の運営

ウ 静岡茶でおもてなし 予算 2,500 千円

美味しい静岡茶を飲んでもらい、静岡茶の購入促進を図る。

(ア) 「静岡茶屋」による美味しい静岡茶の愛飲促進

首都圏を重点に静岡茶屋の普及推進とブランディング

(イ) 異業種と連携した静岡茶 PR

レストランでの静岡茶の新規提供（首都圏3店舗）

(ウ) 各種イベント

エ 茶業セミナー（新規）	予算	1,200千円
テーマ① 「新時代の成長戦略」		
県内茶業トップ経営者によるパネルディスカッション		
テーマ② 「茶と人」フロンティア静岡会議		
(2) 茶業振興事業	予算	3,550千円
① 広報・情報収集、発信事業	予算	500千円
本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。		
② 茶業振興対策事業	予算	1,100千円
ア 茶業功績者表彰及び会頭賞の交付		
茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行い、茶業の振興に資する。		
イ 杉山彦三郎翁顕彰会への助成		
杉山翁胸像がある駿府城公園内マロニエ広場において、記念式及び功績者表彰。		
ウ 茶の新時代を創る会（俗称「静岡茶ユース」）（新規）		
これからの静岡県茶業を担う若い世代の茶業者が、茶業分野にとどまらず幅広い分野とのネットワーク形成等を図り、商品開発や新たなビジネスにより茶業の領域を拡大し、静岡県茶業の振興に寄与する。		
エ 「茶と人」フロンティア静岡会議（新規）		
多彩な分野で「茶」との縁のある人、産地と消費地を繋ぎ、「茶」を愛し、誰でもが健康で豊かな生活を送ることができるよう、「茶」の力を科学し、新たな領域や可能性を広げ、「茶と人」のフロンティアを開拓し、「茶」の発展に貢献する活動を行う。		
③ 茶の効能研究等事業	予算	1,700千円
ア 茶の効能研究ため奨学寄附	予算	1,000千円
静岡県立大学茶学総合研究センターへ調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行う。		
イ 茶の効能等のPR	予算	700千円
日本を、日本人を元気にするため、茶学術研究会と協働で、茶の効能を広報し、嗜好飲料としてだけでなく、生態調節機能を有する保健飲料としてPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。		
・研究発表会の開催		
④ 静岡県茶歌舞伎大会事業	予算	250千円
静岡県茶歌舞伎大会実行委員会へ負担金として支払う。		

(3) 情報誌・茶業図書の発行事業

予算 25,300千円

① 月刊誌「茶」の発行

茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛け、茶業関連情報発信の源として内容の充実に努める。

購読者数は、生産状況が厳しいため全体的には微減傾向であるが、読んでためになる、購読したくなる「茶」誌の編集を目指し、新規購読者の獲得及び広告収入の確保に努める。

② 茶業関連図書の発行と販売について

「茶の品種」、「茶生産の最新技術（製造編）」、「新・目で見える茶の病虫害」をはじめとした茶業関連図書の販売に努める。

③ 編集委員会の開催

(4) 委託事業

予算 23,639千円

生産者所得の向上を図るための消費ニーズに応じた茶生産やコスト低減、及び静岡茶の販売力強化と消費拡大を図るための事業を会員団体に委託する。

① 生産対策委託事業（県経済連へ委託）

予算 8,400千円

ア 静岡茶安心づくり事業

(ア) 農業生産工程管理指導研修及び茶工場実地指導

JGAP及びASIA GAP、HACCP資格取得の研修を実施し、指導員の増加と指導力の強化を図り、未取得工場及び取得工場への指導を実施する。

(イ) 第三者認証へのステップアップのためのT-GAP導入効果を再確認するとともに、今後の取組み方法について検討する。

イ 静岡茶計画的生産対策事業

(ア) 茶生育調査及び生産流通調査の実施

県内外茶生育調査の実施により茶期別生産対策資料を作成し、生産指導を実施する。時期別生産対策資料を静岡県JAグループHPに掲載し、生産管理情報を提供する。茶期別に生産統計調査を実施し、生産指導に活用する。

需要に応じた茶生産に向け、つゆひかりを中心とした優良品種の面積拡大に向け、現地調査を実施する。

(イ) 各種茶品評会への出品指導の実施

茶生産に関する技術力の向上と継承及び本県茶業の安定的発展を図ることを目的として、静岡県茶品評会を開催する。

各種茶品評会出品指導を実施し、上位獲得により静岡茶の名声を高める。

(ウ) 茶業者集会の開催

静岡茶振興施策の説明や各種表彰、生産流通に関する情報提供により生産者の意識統一を図ることを目的とし、茶業者集会を開催する。

(エ) 補助事業の積極的活用指導

改植事業、燃油高騰対策事業、次世代につなぐ営農体系確立事業等の実施主体となり、補助事業を活用した指導を実施する。

② 静岡茶消費拡大委託事業(県茶商へ委託)

予算 15,239千円

ア 品評会開催事業

(ア) 静岡茶品評会(鶴亀品評会)開催事業

第55回静岡茶品評会を開催し、消費者の嗜好に合った仕上茶を供給するための仕上加工技術の研鑽向上と消費市場における本県産茶の声価を高め、良質茶の安定供給体制の基礎を確立する。

(イ) 第13回同一荒茶による仕上技術競技会の開催

消費者の嗜好に適合した仕上茶を市場に供給するための加工技術を競い、あわせて他社の特色を観ることにより、今後一層の茶仕上げ技術の向上を図ることを目的に開催する。

イ 販路拡張事業

(ア) 新茶キャンペーン

県内外での新茶イベント開催などにより静岡新茶の需要拡大と専門店への誘客支援を行う。

(イ) 各種イベントによる消費宣伝事業

県内外で開催される各種物産展や消費者対象イベント等に出展協賛し、静岡茶の消費拡大のため、喫茶試飲サービスやサンプリング、リーフ茶の啓発チラシ等の配布を直接消費者に実施する。それにより静岡茶のPRや宣伝と購買意欲を喚起促進する啓発活動を推進する。

(ウ) 冷茶飲用・普及啓発事業の推進

a 冷茶飲用普及

県内各地区内で催される各種イベント等に参加し、冷茶機の貸与や冷茶関連グッズ等を作製して一般消費者に冷茶飲用の普及啓発を図る。

b マイボトルキャンペーン

急須で淹れるお茶の美味しさやリーフ茶の魅力を啓発し、家庭内の消費だけでなく学校、職場、行楽等外出時にマイボトル(携帯用水筒)にお茶を入れて積極的に飲んでもらうことを推奨し、リーフ茶の更なる需要開拓を図る。

(エ) 静岡茶普及キャンペーンの実施

県内外のイベント等に出展して、静岡茶の特徴である各産地茶の特色をPRし、静岡茶のブランド力を活かした普及キャンペーンを実施する。急須で飲む本格的なお茶から気軽においしく飲める冷茶まで、幅広い年齢層やT.P.Oに合わせて飲めるリーフ茶の魅力を、お茶イベントやお茶講座等さまざまな形で提案していく。さらに新たなリーフ茶ファンの創出を目指し、リーフ茶低需要層の若い世代に向け、リーフ茶の魅力をわかりやすくかつ関心を引くような展開を行なって需要拡大に繋げる。また、異

業種とのコラボレーションを図り、リーフ茶の新たな販路開拓に向けて取り組んでいく。

(オ) お茶の淹れ方教室による茶の啓発

「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」の施行を推進するため、県内各地の小中学校の児童・生徒を中心に淹れ方教室を実施していく。

淹れ方教室では、学校や家庭でおいしいお茶を淹れて飲む習慣を定着させていくため、実際に急須を使って子どもたちにお茶の淹れ方を教える体験教室を展開する。

淹れ方教室は、茶業青年団、各地区茶商組合の協力により県内各地で実施。

(カ) 新幹線静岡駅大型看板宣伝

年間を通して、静岡を訪れる方々に“お茶処静岡”の存在感を印象づけるため、JR静岡駅新幹線下りホームに大型看板を掲出して、県内外の消費者に静岡茶を広くPRする。

2 収益事業

(1) 茶業会館の運営管理 予算 4,520千円

業界の拠点として、広く茶業者に利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

3 その他事業 全体予算額 29,605千円（共通経費 364千円含む）

(1) 委員会等開催費 予算 500千円

理事会、財務委員会・事業委員会、事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図る。

(2) 会員団体助成事業 予算 28,741千円

会員団体が行なう生産対策や消費拡大への取り組みに対して助成する。

① 生産対策助成事業（県経済連へ助成） 予算 11,582千円

ア 生産改善事業

(ア) 安全・安心・良質で多様な静岡茶生産・製造指導

国内外の防除基準作成、生産指導を実施する。

(イ) 生産者・実需者のマッチング、契約栽培への取組

被覆茶、てん茶、有機栽培茶等、需要に応じた生産体系を提案。

(ウ) 産地適性に応じた品種導入指導

需要に応じた生産に活用するための品種導入を検討し、産地適性を考慮した指導。

改植事業による品種普及及び茶園の若返りを図るため、優良茶苗木の生産・供給指導の実施及び苗木許諾契約を実施する。

イ 製茶業者指導事業

(ア) 静岡茶の品質・生産量を維持発展させるための技術指導者及びリーダー育成

将来の地域茶業を担うJA若手茶技術員を対象とし、産地説明や栽培から荒茶製造に

関する基礎講習を主体とした研修会の開催。

(イ) 製茶業者研修会の開催と茶鑑定技術向上に関する取組

茶関係情報及び優良事例紹介等、製茶業者を対象とした研修会の開催。

茶業青年を対象とした会議及び茶審査技術競技会の開催。

ウ 静岡茶販路拡大事業

(ア) 消費地での静岡茶PRと販路拡大

国内外営業担当との連携により、消費宣伝と販路拡大に取り組む。

(イ) 消費拡大に向けた商品開発

国内外の情報収集により、消費拡大に向けた商品開発に取り組む。

② 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成） 予算 17,159千円

ア 教育情報事業

インターネット等を通じての静岡茶に関する情報発信を行う。

イ 後継者育成事業

静岡県茶商工業協同組合の後継者等で組織する県市両青年団は、新茶販促企画をはじめ、お茶のおいしい淹れ方教室、その他各種の事業活動を幅広く展開しているのでこれを支援し、さらに充実した団活動と併せて団並びに団員の資質の向上を図る。

(ア) 県市両青年団事業費助成

(イ) 県茶青との共催事業・冷茶キャンペーン・静岡茶普及キャンペーン

ウ 地区事業

静岡県茶商工業協同組合の地区組合が実施する県内外で開催される消費者イベント等に協賛するとともに、静岡茶の消費拡大のため試飲サービス、サンプル・茶に関するリーフレットの配布などの静岡茶のPR事業を支援する。

4 関連事業

(1) 静岡茶消費拡大推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の下に、オール静岡の体制で、これまで築いた人のつながりを最大限に活用しながら、県外大消費地の大手量販店や茶の商工業組合と連携した販売促進事業を実施する。

- ・大消費地における静岡茶の販売促進事業

(2) 静岡県茶歌舞伎大会実行委員会

日本茶の伝統文化である「茶歌舞伎」を多くの方に楽しみながら体験、お茶への関心を高め日常的な飲用に繋げるための「第1回静岡県茶歌舞伎大会」を開催する。

(3) 日本茶輸出促進協議会事業

日本茶輸出促進協議会より委託を受け、昨年度に引き続き、抹茶のモデル地区を各3ヶ所設置し、慣行栽培、有機栽培の比較や、農薬及び成分分析を行なう。